【ポスター発表】

「障害のある子どもの母親が子育てと仕事の折り合いをつけながら正社員として働き続けるプロセス」

○　大阪府立大学大学院　春木裕美（会員番号 8571）

キーワード：障害児の母親　就労　Ｍ－ＧＴＡ

１．研 究 目 的

本研究の目的は、正社員として就労している母親が障害のある子どもを育てながら、就労を継続させていくプロセスを明らかにすることである。

障害児を育てる母親の就労率は低く、子どもが学齢期になっても多くがパートタイムに留まっている（春木 2015)。先行研究では、就労を制限する、可能にする要因について明らかにされてきたが、就労継続させていくプロセスに着目したものはなく、また、正社員に焦点を当てた研究もない。よって、本報告では、障害児を育てる母親が正社員として就労を継続させていくには、どのような困難があり、どのように対処していったのか、プロセスに着目し、就労継続に影響する要因が母親の内面や行動の変化にどのように関係し合っているのか当事者の語りをもとに分析した。

２．研究の視点および方法

(1) 調査対象者：障害児 (小学生から 20 歳まで)を育てながら正社員で働く母親 7 名

(2) 期間：2012 年 3 月～10 月

(3) 面接内容：1 人 1 時間程度の半構造化面接を行い、「どのようなことが就労継続を可能にしたのか」「どのような就労継続の危機があったのか、その危機をどのように回避または乗り越えていったのか」「なぜ仕事を辞めようと思わなかったのか」等を聞いた。

(4) 分析方法：逐語記録を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）に基づいて分析し、結果図を作成した。

３．倫理的配慮

調査協力者に調査の目的、概要、個人情報の守秘などについて口頭と文章で説明を行い、合意が得られた場合のみ調査を行った。これらの一連の調査については大阪府立大学大学院人間社会学研究科倫理委員会で承認を得ている。

４．研 究 結 果

44 個の概念から 10 個のカテゴリーが生成された。結果図を図 1 に示す。以下、カテゴリーのみでストーリーラインを示す。なお、＜＞はカテゴリー名である。

出産・育児休暇を終えれば仕事に復帰しようと考えていたが、生まれた子どもに障害があることが分かり、＜障害に直面し仕事復帰の危機＞となる。しかし、世間や家族からの＜助け舟的要因＞を受けて仕事に復帰することができる。障害児の母親となって仕事に復

帰してみたものの、数々の＜就労継続の危機的状況＞があり、仕事を継続させていく現状は厳しい。母親は＜仕事と子育ての調整のつなわたり＞、世間からの＜偏見と役割期待に仕事継続への葛藤をもつ＞ことで、常に＜就労継続の不安＞をもつ。しかし、不安と背中合わせに、根底には＜働くことへの価値＞があり、不安と価値が行き来し、思い通りに働けない歯がゆさを感じる。しかし、＜仕事と子育ての調整のつなわたり＞を繰り返すことによって、＜助けられて働けていると実感する＞。それらを繰り返すなかで、徐々に、仕事と子育てに対して、＜諦めと肯定感をもち折り合いをつける＞ことで、＜仕事と育児のバランスをとり自分なりの働き方に落ち着く＞。

5. 考 察

本研究では母親が就労継続するなか、外的・内的な促進・阻害要因が母親の内面の変化と行動の変化に影響していた。

プロセスに着目した結果、母親は正社員として、つなわたり的に就労継続しているが思い通りに働けない歯がゆさをもっていた。母親は周囲と同じように働きたい気持ちを諦めることでバランスを取っていた。実際に就労継続するためにも家族の協力が不可欠であり、祖父母の協力や夫が仕事を変わるなどの負担や犠牲があった。母親が子どもの障害によって制限されることなく就労継続できる安定した社会的サポートが必要であると考えた。

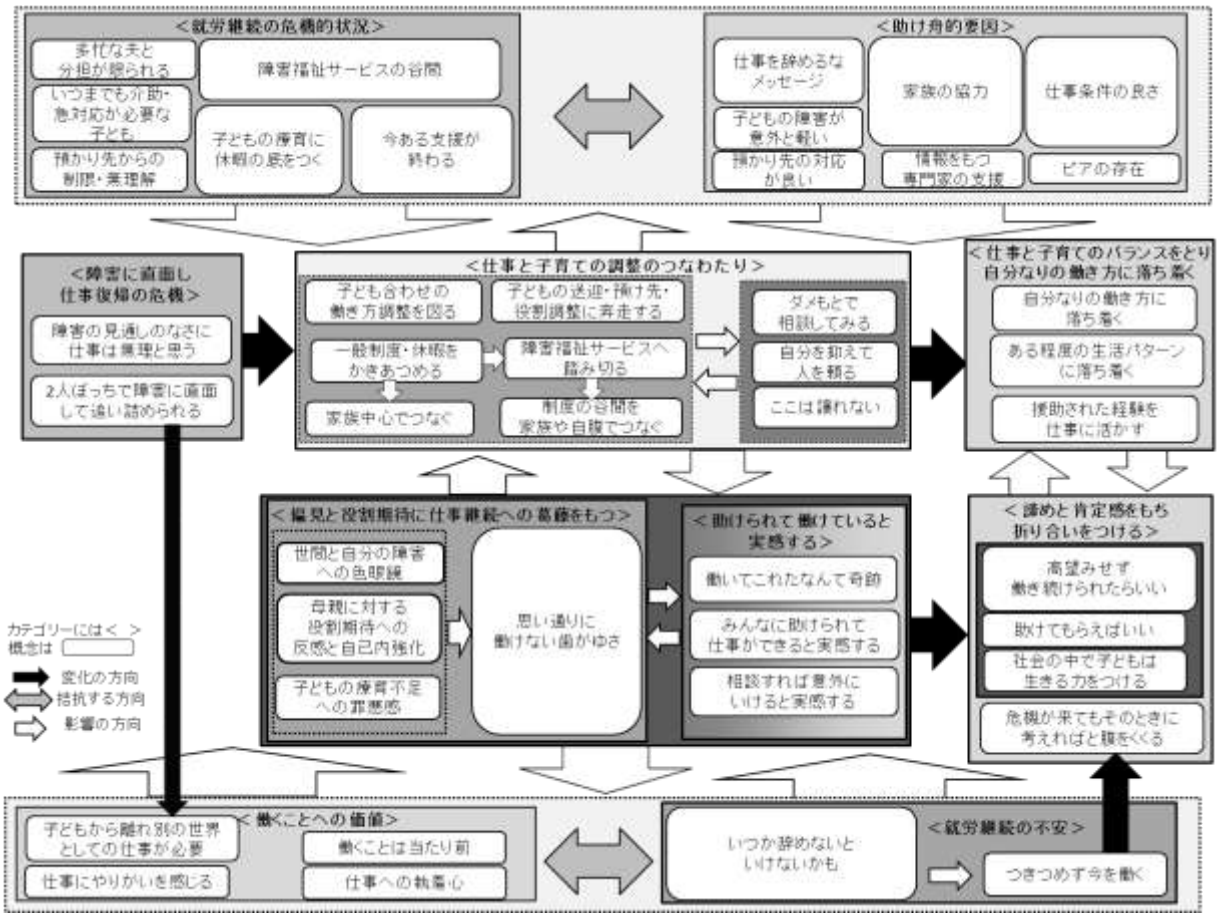

図１「障害のある子どもの母親が子育てと仕事の折り合いをつけながら正社員として働き続けるプロセス」